

編集後記

市川市少年野球連盟 30 周年記念誌の編集は 3 月に実行委員会を立ち上げて記念誌担当者とともにこの数ヶ月携わって来た。

20 周年から 10 年が経過したのであるが、この 10 年の記録が散逸していたためデータ収集から始まった。少年野球関係者に声をかけて多くの方々からご協力を頂いた。なかでも千葉県少年野球連盟 30 周年記念誌「飛躍」、船橋市野球協会少年学童部ホームページ、福栄かもめファイターズ栗原代表の保管されていた大会記録には大変に助けられた。千葉県野球協会にもご協力を頂いた。そして連盟 10 周年記念誌と 20 周年記念誌は連盟設立時の貴重な話とともに参考にした。

10 周年記念誌は最も苦難の時であった設立からの 10 年を振り返って作成されている。本誌の「30 年のあゆみ」で引用した「子供たちが安心して野球ができる少年野球場」の確保のために市川市青少年課はじめ、連盟の多くの先輩方が苦勞された記述が載っていた。この当時、逆のような情熱を持って連盟を牽引された先輩方のご苦勞があればこそ今があると改めて感慨を深くした。

10 周年当時は多くの少年広場があった。今も幾つかの少年広場が残っている。子供たちは大好きな野球を通して、心身は健やかな成長はもちろんのこと、感謝する心、友達への思い遣りの気持ち、努力する大切さ等の貴重な体験ができる。また、子供たちを見守る保護者もお互いに顔見知りになり親睦を深められる。このような地域教育のできる基盤はみんなが集うことができる少年広場という場所があるからである。

30 周年記念誌は「少年野球と少年広場の関係」を思い、使用している少年広場等（公園の中にあるグラウンドも含めて）を紹介することとした。今、私たち少年野球関係者は少年野球場の安定的確保のために更なる努力が求められている。次代を担う子供たちのため、今私たちが少年野球場確保のために頑張る元年として位置付けたい思いで編集した 30 周年記念誌でもある。

また、夢を持って諦めずに野球を継続して「夢の甲子園」へ行かれた少年野球 OB の方々が記念誌に快く寄稿して頂いた。素晴らしい話が聴けて感動している。

最後に、纏まり切らない記念誌ではあるが、少年野球関係者の皆様に市川市の少年野球の 30 年の流れを見ていただければ幸いである。

30 周年事業実行委員長 齋藤 文 男
30 周年記念誌担当者 五 畠 誠 司
高 田 弘 二
大 石 誠
三 井 健 一
伊 藤 和 義

市川市少年野球連盟 30 周年記念誌

白球・そして夢ひたすらに

発行日 平成 21 年 10 月 17 日

編集 市川市少年野球連盟 30 周年記念事業実行委員会

発行者 会長 中 川 實

印刷・製本 株式会社 エデュプレス
